

新年の決意

社会保険労務士 畑中 美和

経済協力開発機構（OECD）による世界幸福度ランキング（2014年）で日本の幸福度は36カ国中20位だったとのこと。上位には社会保障制度が充実した北欧諸国が並びます。それにしても長寿世界一であり、世界第3位の経済大国である日本に暮らす日本人の幸福度が低いのは悲しいことです。

これには色々理由があると思いますが、一つには老後に対する漠然とした不安が大きいと感じます。幸福度上位の国々で、「老後にこそ幸せな生活が待っている。」と感じている人が多いのとは大きな違いです。

「少子高齢化で経済も先細っていく。」そんな閉塞感が社会全体に漂っているようですが、個人個人の不安として大きなウエイトを占めているのが『年金』でしょう。私達の年金制度が持続可能なものなのか？誰もが不安に感じているわけです。

でも少し待って下さい。皆が不安に感じている『年金』ですが、どのくらい『年金』のことを理解しているのでしょうか？例えば、『年金』は将来の老後に受給するだけのものではなく、万が一（死亡・障害）の備えにも対応していること。そして毎年お誕生月に送られてくるねんきん定期便ですが、50歳未満の方向けはそれまでの保険料納付実績に基づいた年金額しか記載されていないので、将来の年金受給額を把握するためには自身でこれから納付する金額と期間から概算額をはじめ出し、実績額に加えるひと手間が必要なこと等。「年金なんてあてにならない。」と言っている人ほどそうかもしれません。

しかしこの現実には理由があります。一つは年金制度が複雑になりすぎて一般の人には分かりづらいものになってしまったから、そしてもう一つはこれまで年金制度を学ぶ場なんてどこにもなかったからです。だからといってこれまでと同じように『年金』から目を背けてはいけません。『年金』を取り巻く環境がこれまでとは大きく変わってきているのですから。

兵法書「孫子」に「彼を知り己を知れば百戦して殆うからず。」という言葉がありますが、戦いが日常から無くなった現代では「なにか問題を解決するときはその内容を吟味し、自分の力量を認識したうえで対処すれば、うまくいくものだ。」と解釈されています。つまり、こと『年金』に関していえば、その制度概要と自分自身の年金について基本を押さえれば将来の見通しが立ち、足りない部分をどう準備していけばよいか計画が立てやすくなるわけです。必要以上に不安がることなく今成すべきことを行っていけば、穏やかな老後を過ごすことが出来るのです。

今年は『年金』にかかる大きな改正があります。2004年に法制化されながら未だ発動されてこなかったマクロ経済スライドにより初めて年金額改正される予定です。（これまでに年金額が減少したのはあくまで物価水準の低下に伴うものでした。つまり、実質目減りする状況は今年が初めてであり、これからは毎年年金額が実質ベースで減少していく時代に突入するのです。）

もう一つの改正は10月の厚生年金と共済年金の一元化です。在職高齢年金制度も厚生年金に統一されますので、今年退職される公務員の方々には非常に影響が大きいと思われます。この様な大きな改正内容でさえ理解が進んでないのは本当に悩ましい限りです。

そこで「この現状を少しでも改善出来れば・・・」という思いから、微力ではありますが社労士として公的年金をテーマに各種セミナー（まさに社会人が年金について学ぶ場です）を行っています。幸運なことに私の思いを汲み取って下さった某銀行でこの数年間定期的な年金セミナーを開催しています。銀行の社会貢献としても重要だと考えて下さっていること、また情報発信力が大きいのでセミナー集客力が強いこと等、とても感謝しています。私が所属する兵庫県社会保険労務士会では社会貢献活動として「労働・社会保障教育」の学校教育活動を行っています。私も社会人の方々に向けた年金セミナーを自身の仕事の柱の一つに据えたいと考え、

精力的に取り組んでいく覚悟です。

そのためには、難しい『年金』の話をつかりやすく話して聴かせるスキルを身につけなければなりません。
新年の決意は『めざせ、社労士界の女性・池上彰!』です（笑）



畑中 美和

神戸市外国語大学外国語学部英米学科卒。都市銀行に総合職として入行、2010年退職。2003年社会保険労務士試験合格、2011年登録、開業。業務研修を経て、2012年10月に江戸町社労士ファームへ事務所移転。社会保険労務士の一般事務、相談業務。ハローワークや市役所での相談員請負。大手金融機関主催セミナーなど各種企業・団体での講演など。